

団体名	NPO法人ひょうごエコ市民ネットワーク		
団体の所在地	美方郡香美町	代表者名	大西 英剛

1. 事業名	但馬地域における自然環境学習及び再生地域エネルギーの調査研究
2. 実施期間	平成24年6月～25年3月
3. 主な実施場所	学習会: 朝来市、養父市、豊岡市他 獣害調査: 朝来市、養父市、奈良県大台ヶ原
4. 活動形態	普及啓発活動 実践活動 調査活動
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	<p>学習会: 現地学習会＝ハンザキ研究所(特別天然記念物オオサンショウウオの保護調査研究)朝来市生野町黒川 参加者10名 ハンザキ研究所長から特別天然記念物オオサンショウウオの生態、生育環境、保護活動について学ぶ。 講演と報告会＝「再生可能エネルギーを考える」参加者20名 講師: NPO気候ネットワーク事務局長、報告: 豊岡市地域戦略推進課 地域でのエネルギーの地産地消を考えようとするもので、電気の買い取り制度が昨年7月から開始したら但馬でも太陽光発電が急速に進んでいる、豊岡市ではペレットストーブの普及、メガソーラーの設置など先進的な取り組みをしている。</p> <p>獣害実態調査: 南但を中心に調査 参加者12名 田畑のシカ・イノシシ被害防止のため農地と山林の境は金網柵が張りめぐらされている。植林されたところも保護のため同じ対策。森林の下層植物は食害で生物多様失われている。木々の皮の食害で枯れたものも見られ、シカが持ち込んだとされるヤマヒルも多く見られた。 奈良県大台ヶ原調査ではシカの食害で山林が崩壊したところでも有名である場所。大きな木も枯れ生物多様性が失われている代表的な事例で但馬の将来を予測される。</p>
6. 成果・反響・反省点等	<p>学習会: 特別天然記念物オオサンショウウオの生態調査、保護活動をしているハンザキ研究所で保護活動を継続していく上での取り組みのノウハウを教えられた。但馬には自然環境が豊かで貴重な生物も多い特にオオサンショウウオの生息数は多いが、日本古来種と中国の外来種の混血化もあり、今後の保護活動に課題もあることを学んだ。 「再生可能エネルギーを考える」講演と報告では、地域でエネルギーを確保する地産地消の必要性を認識することができた反面、今後地域での行政・民間が連携した取り組みの必要性があり。実践していくために多くの課題があることを学んだ。豊岡市の先進的な取り組みを但馬全域で拡大していく必要があるだろう。</p> <p>獣害実態調査: シカの獣害は但馬の田畑、山林、里山に甚大な被害をもたらしていることが分かった。 山林の下層植物は無くなり忌避植物が残り植物動物の生物多様失われている状況から早急に個体数管理をする必要性を感じた。奈良県大台ヶ原調査では今後但馬の将来を予測するうえで参考になった。</p>
7. 成果物	

8. 活動写真・説明



シカの食害で生物多様性が失われた山林